

毎月一回十五日發行(定價一部五錢一年郵稅共五十錢)



二 圭 田 須 兼 輯 編 人 行 發  
市 田 上 縣 野 長  
校 學 門 專 絲 蠶 田 上 所 行 發  
會 曲 千 所 行 發  
町 縣 南 市 野 長  
社 會 式 株 開 新 日 每 週 信 所 刷 印

山本三六郎著  
化學純絹絲の工業的完成 ¥0.30  
伊太利蠶絲絹業の現況と其の衰退原因 ¥1.50  
鹽絲業法規要論 ¥2.30  
市田上縣野長 所行發  
會究研學科絲蠶 (振替長野6413番)

## 支那農村經濟問題 (二)

W 生

### 二、封建勢力による崩壊

支那の封建制度は既に崩壊したが封建勢力は今尚依然として存在して居る、現在の支那は國際金融資本主義と國內封建勢力の二重の壓迫下に置かれた國で政治上から見れば

封建勢力の支配を受けその封建勢力の上層階級は即ち軍閥で袁世凱から吳佩孚、蔣介石に至るまで軍閥といふ軍閥は一人として支那の武力統一を意圖せぬ者は無かつた、之は支那式の一つのファッショ政治の實行である又經濟上より見れば

支那の社會は國際金融資本家と國內資産家階級に支配されて居る、支那の資産家階級とは勿論金融資産家階級を指し資本經濟の生産關係から生れたものではなく封建性の剝削關係から派生した一種の畸形的發展に過ぎず而も買辦資本家、商業資本家銀行資本家により代表されて居る事により商業資本主義がその本來の機

能を發揮せんためには對外的には國際資本主義と握手をなし對内的には必然的に封建軍閥と結託し之れが政治上の獨裁となつて現はれて來ねばならぬ。

支那社會の經濟機構が商業資本主義の域を脱しない限り經濟上の獨占を把持せんがため必然的に政治上の獨裁となつて反映する、従つて商業主義社會の内包するあらゆる矛盾は其處に新軍閥をさへ形成せしめねばやまない状態にある。

兎に角商業資本主義の政治的要求が獨裁、にあり小資産家階級の政治的要求が民主に立脚して居る點より見て此の兩者は到底根本的に對立せざるを得ない、即蔣介石の獨裁と汪精衛の民主主義の對立である國民政府成立以來幾度か民主主義の統治形態が擡頭しかけても小資産家階級の持つ勢力が薄弱で商業資本社會の持つ金融的勢力の壓迫に堪え兼ね忽ち崩壊されて仕舞ふ。要するに支那社會の經濟的機構が封建性を多分に持つ所の商業資本主義の域を脱

し得ない限り民族的運動(民衆運動)の共同線は絶對に至難な事と思はれる。

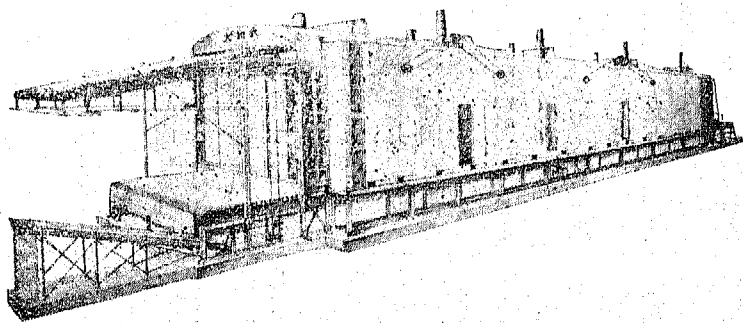
かくて支那國民は質的には商業資本家階級、買辦資本家階級、銀行資本家階級に支配され地域的には支那經濟の三大分野なる長江、珠江、黄河と分たれ其内最高支配位置を保持する長江の經濟勢力を背景とする新軍閥の獨裁勢力が多々擴大すべき客觀的條件を具備して居る。

#### (1) 軍閥と官僚の搾取

軍閥と官僚は利害關係から連年内争を續け農民に非常な損出を與へ飢餓に瀕せしめて居る彼等は單に強迫と誘惑とで人民に軍隊を組織せしめ之を自己の道具に利用するのみならず「升官發財」の犠牲に供し同時に一般農民の血と汗を搾り取り己が榮耀榮華のために浪費して居る故に支那の賦税の増加は日と共に甚だしく其の名目も種々複雑極まるものである。

支那の地租の高率過酷なる事は世界にその比を見ず現在各地の附加税は正税の幾十倍なるを知らずといふ有様である民國十九年(一九三〇年)立法院統計處の調査せし所では地租

## 現代乾繭機界ノ王座 大和式自動輸送乾繭機



【製録贈品】

1933年代表型

製作發賣元

株式會社

大和三光商會

東京京橋區京橋三丁目二番地

電話京橋(56)五三二〇番

#### 營業課目

特許大和式自動輸送乾繭機  
特許大和式自動輸送乾繭機  
特許大和式自動輸送乾繭機  
特許大和式自動輸送乾繭機  
特許大和式自動輸送乾繭機  
特許大和式自動輸送乾繭機  
特許大和式自動輸送乾繭機  
特許大和式自動輸送乾繭機  
特許大和式自動輸送乾繭機  
特許大和式自動輸送乾繭機

江蘇省江浦縣

同 三〇種 (同 二六種)

地租の微税額は各地により地味により高低あり。

江蘇省、蕭縣 每畝一元八〇

(二畝は上海地方一八〇坪見當)

山東省、萊陽縣 同 一元九〇

浙江省、嘉興縣 同 一元二九

河南、山西縣 同 約三元〇〇

四川省 同 二元五六

地價と地租との割合は大多數の地方は一五%の間であるが江蘇省武進縣及無錫縣地方は大休一、三%で

の種類の最も多き縣は實に三〇種の多きに上り少なき所でも十二種あり附加税の多き所は二六種に達す。  
廣東省開平縣 附加税の種類一三種(内附加税一〇種)  
雲南省元謀縣 同 一九種 (同 一八種)  
河北省徐水縣 同 二三種 (同 二二種)  
湖北省隨縣 同 二三種 (同 二二種)  
浙江省義烏縣 同 一五種 (同 一三種)

ある四川省 都地方及山西省河南省  
地方は六〇見當である。

毎畝の收穫高は蘇州、常州地方は  
僅に二〇元前後が普通で河南省は更  
に減じ一〇元見當山東、山西省地方  
は精々七八元見當である。之れより  
見れば農作物の収入の大部分は税金  
として徴収されて仕舞ふ譯である。

更に地租の課率も急速に引上げられ  
つゝある事は又驚くばかりで光緒廿  
八年(明治卅五年)の全國最良田の地  
租每畝約四角(小洋四〇仙)といふ標  
準から見ると過去卅年間に非常な激  
徴である。

斯様に各地で勝手に逐年地租の増  
徴が行はれ尙足りぬとせず更に彼等  
に取りては天来の妙案農民に取りて  
は前古比類なき暴政即ち地租の豫徴

### 北滿經濟發達の概要 (二)

在哈爾濱 清水 衛 敏

#### 三、滿洲事變前

本項に於ては大正九年頃より昭和  
五年八月滿洲事變勃發迄に至る約十  
年間の北滿に於ける政治經濟上の變  
遷を述べやうと思ふ。

支那が北滿に於ける露國の利權を  
回復せんとし秘かに策動を開始せる  
事は前項に述べたが、一九二〇年(大  
正九年)三月に哈爾濱を中心として  
勃發した東支鐵道の大同盟罷業を機  
として支那は實力を以て東支鐵道回  
收の舉に出で爾後幾多の曲折を経て  
該鐵道の實權を掌握すると共に、東  
支鐵道附屬地に於ける行政權、警察  
權、司法權、土地管理權等を逐次奪  
取して尙鐵道警備に當れる露兵を逐

を強制しつゝあり、張宗昌が山東省  
に居りし時既に一九三三年分までの  
豫徴をなし四川省鄧錫侯の駐防する  
地方では五〇年後(一九八二年)まで  
の地租の豫徴をなし居る。劉湘、  
劉文輝等も略々同様之れを見て支  
那の軍閥官僚が如何に農民に對して  
過酷なる搾取をなして居るかが判か  
ると思ふ。

貧困なる支那農民は何うしてかゝ  
る不當な過重の負擔に堪へ得られ様  
か支那奥地の各省各縣では農民が課  
税の過重に苦しみ田畑を學校寺院に  
寄附したり或は土地を不要だと言つ  
て放棄し貪官汚吏の誅求を免れんと  
しつゝある之れが又耕地の激減荒地  
激増の主なる原因ともなつて居る。

(つゞく)

つて支那兵を以て之れに交代せしめ  
た。

斯くて東支鐵道を中心とする露國  
の政治的勢力は支那側勢力の擡頭に  
依つて忽然其基礎を覆へるゝに至  
つたが、一九二〇年(大正九年)十月  
所謂露奉協定成立し東支鐵道を純然  
たる露支合辦の營業機關となし露國  
は其他の諸權利を支那に返還した。  
經濟的方面に於ける露國勢力の失  
墜と、日本勢力の減退に乘じ支那側  
に於ては大正八、九年頃より上海、  
天津筋の巨商が進出し來り資本的勢  
力を示し、一面地場には於ける華商運  
も漸次發展し來り、從來在哈邦商を  
經て取引を爲せる日本からの輸入貿  
易に對しても、彼等は直接に日本と

の交易を開始し日本よりの輸入品は  
其七割程度が華商の取扱に屬するに  
至つた、邦商側の輸入貿易は上述の  
通りにて甚しく衰微し、輸出方面も  
亦母國にて需要する豆粕が邦商の手  
を經る外概して不振に過ぎた。

支那側の東支鐵道關係に對する利  
權回收狀況は大略上記の如くであつ  
たが、露國側が無効で支那側の横暴  
に對して一向反抗的態度を示さざる  
を奇化として支那側は益々横暴を極め  
鐵道局に於ける人事及業務に關して  
も我儘の振舞を敢てし尙露國側にて  
經營せる哈爾濱電話局及教育機關迄  
乗取りたるに及んで昭和五年七月所  
謂露支抗爭事件が勃發し露支國境に  
於て半年に亘つて兩國軍は戰爭を繼  
續した。

而して結局支那軍は大敗し遂に該  
東支鐵道問題は莫斯科に於ける外交  
交渉に移されたが在日日時を經過し  
進展を見ざる内に滿洲事變勃發し支  
那側代表は莫斯科を引揚げ本事件は  
有耶無耶に葬り去られた。

此時代に於て支那側が北滿に於け  
る政治、經濟と如何に露國を壓迫し  
たかは前に述べた通りであるが日本  
に對しては如何なる行動を執つたか  
と云ふに是れ亦横暴壓迫を極め其實  
例枚舉に遑あらざる所であつたが、  
支那は日本の國力を怖れるが爲め露  
國に對する程露骨の行動には出で無  
つた。

然し大正十五年に於ける支那官憲  
の強制的哈爾濱市會解散問題、大正  
十五年より翌昭和二年に至る金圓排  
斥問題、昭和二年十二月東省特別區  
地畝管理局が布告せる外國人に對す  
る特別區の租借地名義變更を不可能

### 滿洲雜信 (一)

#### 滿洲國の經濟建設工作

湯川 秀 夫

#### 〇認識 難

昨年來滿洲國宜撫工作のため北滿  
に活躍して居る友人の直話に  
……北滿の或る土民眞面目吳つて  
曰く「今度滿洲國と言ふ國が出来  
たそうだ。何でも長春邊に出來た  
そうだ。一つ見物に行つて來たい  
ものだ。」と。

又同じく過般北滿で永く馬賊に拉致  
されて居た滿鐵社員の避難日記に  
……馬賊の一人に滿洲國とは何ぞ  
やと訊いたら  
是東西(そりや品物)の名だらう……  
……と。

それ處か滿洲にはマダ清朝時代と思  
ふて居る太古の民さへ居る。

滿洲事變以來認識不足と言ふ言葉  
が流行つたが認識不足豈聯盟氏諸公  
のみならずリットン卿のみならず  
や。かく申す筆者と雖も固より方三  
尺の小窓からいづも變らぬ桑園や幸  
果畑を眺めて暮す身の。北滿の民  
を笑へた義理ではない。言ふ處は皆

の景況は如何であつたかと云ふに北  
滿地方も大正九年の世界の「パニッ  
ク」の影響を受け概して不況裡に過  
ぎたのである。

殊に昭和五年七月より半年間は露  
支抗爭事件に禍され、次で昭和六年  
一月よりは銀貨大暴落に會し同年九  
月滿洲事變突發する迄の間慘憺たる  
狀況で終始した (つゞく)

#### 〇滿洲國經濟建設綱要

右に關しては本年三月建國一周年  
に際し同國政府が發表した。一國の  
具体的大計畫としては蘇聯の經濟建  
設計畫にも比すべきものである。而  
してその計畫の根本的主義思想は  
一、所謂資本主義經濟の排撃 二、  
統制經濟の確立 三、門戶開放機會  
均等主義 四、日滿經濟ブロックの  
提唱である(東亞六卷四號)

計畫の具体的方策は既に數多報道  
されて居るから之を省くがその綱要  
は次の如くである。

#### 第一 交通施設の充實

滿洲國經濟の根幹たる農業の振興  
一般資源の開発、治安の維持、商業  
の隆昌、文化の向上、總て交通の發  
達に俟たぬものはない。此意味に於  
て交通網の完成は滿洲國建設の基礎  
工作として最も緊急不可欠とされる  
所である。以下各部門に就いて述べ

れば

一、鐵道

滿洲鐵道將來の總延長は二萬五千  
料であるが、其内今後十年間に完  
成すべき新線四千料、現に其一部  
分は着々として進行しつつあり、  
十年後に於ては既設のものも含し  
て延長一萬料に達する計畫であ  
る。

二、港灣及河川

滿洲國の港灣として大連、朝鮮、  
東北部諸港灣が利用せらるゝは勿  
論營口、安東兩港は所要の改修を  
加へられ葫蘆島の築港も必要の時  
期には完成せらるゝであらう。  
尙黒龍江、松花江、鴨綠江及遼河  
の水運に關する便宜増進の計畫が  
着々進められつつある。

三、道路

主要都市相互間及主要都市と各縣  
城間を聯絡する路線、其他未開地  
開發及國防上必要ある路線等總計  
六萬料を十年間に新設又は改修す  
る。

而して全國に亘る之等の路線上に  
は自動車交通を發達せしむる計畫  
である。

四、通信

經濟幹線並に之に附隨する支線の  
改良擴張、放送施設の擴張、主要  
都市電話施設の改修擴張を急ぐ計  
畫である。

五、空運

空運は日滿合辦の滿洲航空會社の  
經營に委ねてある。而して今後三  
年間に空路約三、五〇〇料を開拓  
する外、將來東洋各地間及歐亞聯  
絡空路の開拓に努力する筈であ  
る。

六、都市計畫

國都新京は二百平方料、五十萬の  
人口を目標とする模範都市たらし  
むべく、國都建設局は着々其建設  
を促進しつつある。尙其他重要都  
市に對しても近代都市計畫の實  
現を期する筈である。

第二 農業の開發

一、農產業

滿洲國々民經濟の根幹は農業であ  
る。而も其農業たるや殆んど原始  
農業の域を脱してゐない。従つ  
て、現在外國に依存せる農產物は  
之を國內に於て自給するの策を取  
り、農產生産物の輸出を促進し、  
農民大衆の生活福利を向上せしめ  
るには、一に農產の改良増殖に努  
力する必要がある。之が爲め、滿  
洲農業經營の大本たる大豆、高粱、  
粟、玉蜀黍の改良増殖を圖ると共  
に棉、小麥等の栽培面積を擴大せ  
しむる爲適當の保護獎勵を加へ  
る。其他煙草、麻類、落花生、胡  
麻、蔬菜等の栽培増殖の飼育を  
獎勵して、農業經營の改善及農家  
經濟の緩和を圖る。

二、畜產業

滿洲國の畜產は其量豊富なるに拘  
らず其質は劣等なるもの多く資源  
としての價値が低い。されば今後  
の開發方策は單に家畜頭數の増加  
に止むべきにあらず其品質の改良  
並に衛生制度の確立を以て主眼  
とせられなければならない。此觀點  
よりして滿洲國は馬及細羊は在來  
種の改良を行ひ、牛は在來種の選  
擇淘汰を行ひ共に改良種の増殖を  
圖り豚は國內需給を目的として其

改良増殖を行ふ。

三、林業及水産業

林業は森林の濫伐を抑制し、之が  
保護増殖に努め、合理的經營に依  
つて林力の保護を圖ることを主眼  
とする。而して國有林は國營を原  
則とし、公有林其他は民間の自由  
經營に委ね、政府は適當なる方法  
により造林を獎勵し、林業の發達  
を企圖する。  
水産業は孵化養殖に依つて資源の  
涵養に努め、濫獲を戒め、其恒久  
的利用を圖る。

第三 鑛工業の振興

鑛業資源を開發し基礎工業及國防  
工業の確立を圖り以て國民經濟の充  
實、國富の増大を圖るを以て方  
針とする。之を各部門に就て云へば  
一、鑛業  
國防上重要な鑛產資源の開發に  
就ては、日滿兩國の特殊なる關係  
に鑑み特別な處置が講ぜられて居  
る。即該資源は原則として特殊會  
社をして其鑛業權を確保せしめ、  
以て無統制濫掘を警むると共に開  
發に便利なる如くする。  
石炭は諸炭礦を統一し合理的生産  
と供給とを行ひ、以て低廉豊富な  
る燃料を提供すると共に輸出の増  
進を圖る。  
砂金及金鑛は國有のものとならざ  
るものとに區分し、國有のものは  
特殊會社をして採掘せしめ、其他  
は一般に開放する。

二、工業

金屬、機械、油脂、パルプ、曹達、  
酒精、炸藥等の諸工業は努めて其  
發達を圖り、紡績、製粉、セメン

ト、醸造等の諸工業は内の要件に  
伴ひ所要の統制の下に逐次發達せ  
しめる。  
右以外のものは差當り自然の發達  
に委するも、將來必要に應じ所要  
の統制を加へることもあるであら  
う。

又電氣事業は統一經營を行ひ、低  
廉なる電力供給を目標とする。尙  
工業の健全なる發達を促進し、施  
設集中の利益を圖る爲奉天、安東  
哈爾濱、吉林附近には工業地域を  
設定する。

第四 金融の整備

舊軍閥の私利私欲を列擧するの煩  
に堪へない。然し乍ら其民衆に對す  
る害毒の最も甚だしかりしものを舉  
ぐるならば、紙幣の濫發、片紙（註  
紙幣類似の通貨）の流行による民力  
の擄取である。滿洲國政府は建國當  
初の方針に基き、之を整備を緊急と  
し、既に中央銀行を設立して國幣を  
發行し、其價値の維持に努め、以て  
金融の鞏固と回滑とを期しつつあ  
る。

第五 財政の確立

滿洲國の財政は内外に於て最も憂  
慮せられた所であるが、當局は驚く  
べき敏速さを以て其確立を敢行し  
た。即ち建國後の四ヶ月を第一期と  
して、其間内國稅に關する整理と海  
關及鹽務機關の接收とを了し、次の  
三ヶ月を第二期として財務諸機關の  
充實を計り、月額預算を組むことに  
成功し、昨年十月以降の第三期に於  
て年度豫算を確立した。其財政組織  
は舊時代の財政機關が有名無實、中

間に於て消費隱匿の弊多かりしに鑑  
み、各省財政部自ら縣財政を直轄  
し、新に稅務監督局を設けて其監督  
を嚴にする等、其面目を一新した。

今大同元年度豫算を見るに歳入總  
額一億一千三百三十萬元、其經常部  
九千七百四十萬元弱、臨時部は一千  
五百九十萬元強であり、歳出は經常  
部一億〇四百五十萬元弱、臨時部八  
百八十萬元弱である。而して右豫算  
編成の根本方針は刻下の緊急に應ず  
るを主として支出に大削減が加へら  
れたので、勿論幾分の無理がある  
が、斯くの如きは第一年度の緊急豫  
算としては已むを得ざる所であら  
う。

滿洲國財政の將來は決して憂慮す  
るに當らない。國內の治安恢復と共  
に其收入の増加すべきことは事實が  
之を示してゐる。即ち本年度收入實  
績の如き既に其豫想を超過してゐる  
のであつて、諸稅合して年二億元程  
度に達するは遠き將來ではない。唯  
經濟的新建設の資金は其大部分を外  
國に求めなくてはならぬ状態であ  
る。

右の計畫の中既に實現したものは  
中央銀行の他に一、滿洲國鐵道の  
滿鐵委任經營の決定 二、昭和製鋼  
會社（滿鐵出資一億圓） 三、確安工  
業（二千萬圓） 四、滿洲電信電話株  
式會社（五千萬圓）であり最早内定の  
ものに一、滿洲石油會社 二、滿洲  
炭礦會社 三、日滿マグネシウム會  
社 四、滿洲電氣會社 五、滿洲探  
金會社 六、アルコール會社 七、  
セメント會社 八、製麻會社 九、  
バス會社 十、パルプ會社 十一、  
農業經營事業會社 十二、森林開發

會社 十三、鹽業會社(曹達工業を  
含む) 十四、製藥會社 十五、牧畜  
會社等があり是等は滿洲國の經營の  
ものもあれど大体は滿鐵獨力又は滿  
洲國滿鐵共同經營が根幹をなしてゐ  
る。

申す迄もなく滿鐵は滿洲に於ける  
最大の權益であり日本國家資本主義  
の代表機關である故に從來通り滿鐵  
が滿洲經濟建設の中心勢力となつて  
ゐる。先般滿鐵が資本金八億圓に倍  
加したのは更に飛躍擴大せむがため  
である。

統制經濟と謂ひ日滿經濟ブロック  
結成と言ひ關東軍指導の下に滿鐵と  
滿洲國と提携合作する事が最も容易  
な次第である。

### 滿蒙行脚

#### 記

野口生

(八、八三一稿)

「世界的動搖特に東洋諸國民の生活  
不安は最近に於て益々高まりつゝあ  
るにも拘はらず、平和促進の任務を  
以つて生れた國際聯盟は和平確立の  
基準に於て我帝國の主張と所見を異  
にし、現實的には却つて秩序を維持  
すべき方法の樹立を誤つた列國が、  
各々自國の利益を主として行動する  
事かくの如くなる状態の下に於ては  
國際協調に依つて一舉に世界的恒久  
平和の到來を期待する事は困難であ  
る。我等は先づ自らの實力を以て世  
界の東方に平和の樂土を建設し、步  
一步東洋諸民族の和合を圖り、やが  
て世界再建運動に貢獻する以外に途  
なき事を覺つた。此の世界再建運動  
の第一歩は現實的には滿洲の産業建  
設にあり、又その具体化の前提は日

#### ○滿洲經濟建設參謀本部

こんな名前は無い。筆者の假稱で  
あるが現在經濟建設の中心部は滿鐵  
の經濟調查會である。滿鐵の過去廿  
余ケ年に亘る大該博なる諸種の調  
査資料の上に昨春來數百人の社内の  
エキスパートを動員して計畫立案し  
亦關東軍の諮問機關となつてゐる。  
尙此の上のも一つの機關は關東軍  
の特務部であつてそれこそ各方面の  
權威者が顧問として居り(農業は安  
藤廣太郎博士)軍司令官の諮問機關  
として智囊を傾けてゐる。之れで以  
つて自然滿洲國經濟建設の中心主義  
及動向は察せらるゝ事と思ふ。

滿洲國民の完全なる提携と滿洲事情  
の徹底的理解とにある。かゝる目的  
遂行に致さるべき事業は多々あるべ  
きであるが、純眞にして研究的であ  
り且情熱的である青年學徒を多數動  
員して其の先驅たらしめる事は最も  
重大なる意義があるものと信ずる。  
此の見地に於て關係各省、滿洲國政  
府、關東軍、滿鐵等の後援の下に全  
國各大學、專門學校の學生約一千名  
を動員し、本年夏季休暇を利用して  
別紙要綱の事業を實施する事とし  
た。若し諸賢の熱烈なる賛同を得て  
青年學徒による世界再建運動への貢  
獻が有意義に實現する事を得ば邦家  
の爲、將又人類の爲に非常なる幸福  
であると考へる。云々」  
之は今夏行はれた滿洲産業建設學

徒研究團動員の趣旨である。私は本  
校學生三名と共に此の行に参加して  
暑中約一ヶ月に亘り滿蒙各地を巡遊  
して歸つた。以下は其の旅行中餘暇  
を拾つて記した私の拙き旅日記であ  
る。

#### 内地出發

七月十四日、早朝上田を發ち正午東  
京驛で本校からの參加學生と落合  
ふ。驛前のビルで簡単に食事を済ま  
す。もう此頃から各地より續々集つ  
て來る正服正帽、卷ゲートルにリ  
ュウツツクを背負つた激進たる團員  
たちの姿を見る。定刻にはまだ少し  
間があるが其の足で日比谷公會  
堂の集合場所へ行く。もう身動きも  
出来ない程一杯だ。暫らく軍樂隊の  
勇ましい國歌や滿洲國國歌等の奏樂  
を聴きながら開會を待つ。やがて定  
刻の二時半に指揮官の「氣を付け」の  
號令が響き渡ると滿員の會場忽ち肅  
然、發會式の幕は切つて落される。  
先づ副團長山本忠興博士の開會の辭  
に次ぎ君が代合唱、團長永田秀次郎  
氏聯盟退退の詔書を捧讀して更に式  
辭「滿蒙の新天地、江山待つあるが  
如し團員諸君努力せよ」と讀む。内  
務、拓務、鐵道、文部、陸軍の各大  
臣交々立つて短い言葉に熱意のこも  
つた激勵を與へる、續いて來賓滿  
洲國公使館代表孫錫氏、參加學校代  
表林慶大總長、大毎、東日新聞社の  
徳富氏等の祝詞ありて後學生代表立  
ち「日滿青年の精神的結合、世界正  
義の再建こそ本團の使命である」と  
團員の覺悟を述べ終つて國歌「黃海  
波はゆるくして」を高唱、萬歳を三  
唱して感激的な場面は閉じらる。か  
くて發會式は終り一同團旗を先頭に

二重橋前に行進を起し午后四時宮城  
前に整列して最後禮が代の後團員  
代表誓詞を捧讀し萬歳を三唱。それ  
より隊伍を整へ東京驛に乘込みホー  
ムを埋める怒濤の様な見送りの人波  
にもまれて乗車「萬歳」しつかりや  
れ」の嵐を浴びながらさながら出征  
軍人の様な感激と昂奮の裡に午後五  
時五十七分特別臨時列車で東京を發  
つ。

七月十五日、午前五時限を醒ます。  
汽車は琵琶湖畔をまっしぐら西に向  
ふて走つてゐる。七時神戸着、直ち  
に湊川神社に集合。此處で關西方面  
の團員を加へ社前に皇運無窮の祈願  
を籠めて此の快舉の報告を行ふの  
だ。一同最敬禮の裡に神官の御祓が  
行はれ副團長仁保龜松博士玉串を捧  
ぐ。此の頃から細雨肅々として降り  
初め社頭の線を曇らせる。團長式辭

「世界の平和人類の福祉のため  
此壯舉に加はる事男子の本懐ならず  
や」と呼びかゝれば學生代表「今や  
青年學徒の責務今日より重大なるな  
し」と團員の覺悟を誓ふ。續いて白  
根兵庫縣知事、河野大毎及東日新聞  
社總務等の送別の辭ありて式を終り  
九時神戸第一中學のラッパ隊を先頭  
に神戸のメインストリート元町通り  
を大行進、歡呼の裡に神戸商工會議  
所に於ける歡送を受け神戸港第一突  
堤より特別船大阪商船のリオデジャ  
ネロ丸に乗込む。此の時分から雨聲  
れる。割當てられた自分の船室に荷  
物を置いてデッキへ出るともう岸壁  
は見送り人でごつた返しだ、五色の  
テープの波旗、花束、校歌エール、  
ワーツと云ふ歡聲、萬歳、まるで怒濤  
の様な昂奮のつづきである。十一時

出港のドラに續いて正午最初の汽笛  
が鳴る。テープは切れた。見送りの  
飛行機の低空飛行に答へつゝ船はは  
や明石沖に差しかゝる。陸上の狂亂  
に比して内海の眺めは又何と云ふ靜  
寂さだ。船窓に迎送する雨聲れの薄  
もやに包まれた名も知れぬ大小の島  
々はまるで眠れる如きである。感激  
から醒めると急に空腹を覺へた。早  
速食堂に入つて食事をとりそれから  
友人に、郷里の親に壯途の第一信を  
書く。船は美しい内海を西へ西へと  
滑るが如く進んで行く、やがて夕陽  
が船首から消へて船上の第一夜が訪  
れて來た。十時の點呼がすむと早速  
ベットにもぐり込む。

七月十六日、ドラの音に午前四時  
起床、今朝は門司入港のため特別こ  
んなに早く起きるのだ。揚子をくわ  
へてデッキに出て見れば船はもう門司  
港沖に差しかゝつてゐる。六時岸壁  
に着く、七時から十一時まで自由上  
陸許可、バスに乗つて門司の町を一  
周し果物等買ひ求めて船に歸る頃九  
州、中國地方からの團員百名位乗船  
して來る、我等は拍手を以て此新し  
い仲間を迎へた。正午出帆、愈々之  
で内地とは暫らくの御別だ。四時頃  
左舷に臺岐、暮れ方右舷に對馬を見  
る。玄海灘の荒浪も一萬噸の大船に  
は一向にお感しない。夜はレコード  
で國歌及滿洲國國歌の練習をやる。  
七月十七日、午前五時起床、船は朝  
鮮の西海岸を走つてゐる。時折切り  
立つた様な岩の小島が見へる、一同  
デッキに集合して遙に東方皇居を遙  
拜しそれから朝の体操をやる、これ  
は精神体操とか稱し本團獨特のもの  
で其の號令が仲々奇抜である。曰く、

様な譯である。然し來てから色々研究して見ると類似品が全國に澤山ある

井納、長良大島、伊勢崎、桐生等より出来る銘仙大島等は所謂模倣品であつてしかも大島の名を冠して販賣せられて居るため買つた多くの人は本場大島と思つて得々として着用に及んで居る、そこで此等類似品でも本場物と何等の通色がないかと云ふに大にありて全然異なるもので大島としての価値なきものである、それでは如何なる點が價值あるかと云ふに一言にして云へば本場大島は染色が製品でなく木を煎んちて得たる自然の染液で染めしかも泥に浸漬して得たるあの濃黒茶色と紺の足（足とは黒色の部分と白くぬけた紺との間に染液の滲て出来た茶色の部分）並に整然と合つた活き／＼した紺の點等にあるので本場物に少しく經驗ある者なれば一見して判別出来るのである。

此等の點より察して如何に本場大島が大島獨特の織物で他機織地の追従を許さざるものであるかがわかると思ふ、即ち鹿兒島特産品である天下に誇り得る所以である、依て以下原料及製織工程に就て簡単に書て見る原料は本来絨織なる故絨織を使用するのが本當かも知れぬが現在玉絲と本絨生絲とが使用されて居つて他の織物繊維は全然使用されて居らぬ、絨織を使用したのは極く昔で縞織物、黒無地織物等を織つて居つた時代の様であるよく人絹が使用されては居らぬかなどと照會が来る事があるが使用して居らぬのが本當である實際使用したくとも染色關係からして全然使用出来ぬのである、若し本場物に人絹物があつたなら懸賞もので全然ない事を命を懸けて保証する、本絨製は絨と云ふ感はないがすべ／＼して居つて紺が實に精巧に出て居るから非常に綺麗である、染色は地も絨も全部チチ木（學名シヤリンバイ暖國に成育する樹木）の煎汁と鐵分を含む粘土質の泥とを以て交互に數十回染色してあの言ふに言はれぬ濃黒茶色を得るのであつて早く云へば昔の婦人が齒を黒く染るに用いたオハグロと同一原理である、次ぎに紺の製作であるが之が非常に面倒で圖案を見ながら専門家が紺にすべき線を縫機にて縫めて縫狀に出来たものを前述の方法に依り染色して先きに縫めた部分（此の部分の紺となる）を解くして紺とするのであるが此れこそ大島絨の生命であるから相當經驗の積んだ者が苦心して製作に従事して居るのである製織は簡單なる手織機を用ゐて絨を合せながら織るのであるが之が又難しいもので相當の熟練工でないとい等な織物は出来ぬそれで皆養成に苦しんで居るらしいのであるしかも三寸位縫つては針で紺を整然と合せ／＼織るため一匹織るにも簡單な絨で十日少し面倒なものになると一ヶ月位掛るのには珍らしくないのである今日の様に動力を使つて一日幾匹も織上るのと比較すると神代時代を思わせないでもない兎に角紺によつて色々な模様を織出すと云ふ事はなかなか出来ぬ事で世界廣しと雖も唯大島のみが出来ぬ技ではないかと思ふ實際大島絨の精巧なものは立派な美術工製品として觀賞すべき價值あるもので着用品としては勿体ない様に思はる、大略以上の様な方法で製

### 顔忘れ症

千葉 高 昌 生

かつて面識あるには相違ないが、その誰であるかを想ひ出せない時は、まことに氣持の悪いものである。殊に相手の人がコツチをよく知りぬいて居て、なれ／＼しく話しかけられる時には、話のバツを合せるのに一方ならぬ苦心の要るものである。ソナナ場合、相手の素性を知るために、搦め手から打診を試みてうまく成功する場合もあるが、却つて話の辻褄が合はなくなつて、トンダ處で馬脚を露はすこともある。

面識はあるが素性が想ひ出せない程度ならまだよい方で、時としては全然見當のつかない場合があつて、「先方から先日は失禮しました」ナて言はれた時、全く面喰つて了ふことがある。又その反對に、折角コツチが敬意を表しても、相手に自分の誰であるかが通じない場合には憂鬱にならざるを得ない。

世間には一度會つた人の顔や名前が決して忘れないと云ふクチの人があるが、此種の人は人心を吹攪するに便利である。一兵卒が將軍から「オイ上田！」とやられた時には、ドンナに親しみを感ずることか。然るに私は、この人の顔を憶えることが頗る不得手で、時々失敗する事がある。かつて農學校の教員をやつた時代にも、生徒の顔を憶えるのに、どの位苦心したか分らない。殊に初老の域に入つた近頃では、この傾向が益々甚しいやうな氣がする。

又コンナ事もあつた——汽車の中で一人の百姓風の男から「先生！先日は御苦勞様でした」と挨拶されたが、さて誰であるか、想ひ出せない。仕方ないから「ドナ様？」ときくと「成田です」との答。それでも未だ成田の者と云ふ意味か、成田と云ふ姓か判明し兼ねて居ると「あの時の御講演は大分タメになりました」とオ世辭を言はれたので、漸く解せた。それは二三日前講演に行つた或る養蠶實行組合の組合長成田氏で、晝飯を馳走されたり、繭沼の鰻を土産に呉れたりした人である。先方では定めし御馳走がひのい奴。と思つた事であらう。

八百屋の店先に並べられた西瓜は、どれもこれも同じ格好をして居て區別がつかない。それと同じやうに私にはどの人もこの人も同じ顔に見えて、餘程の特徴のない限り區別がつけ難い。（その癖異性の美醜には頗る敏感で途上で一すすれ違つた別嬪の姿など忘れかねて夢にまでみると云ふ矛盾があるけれど）故外山博士は一頭一頭の蠶の特徴を捉へて、數百匹の蠶の中から數日後に再び同じものを拾ひあてる事が出来たと云ふが、自然科学の權威者たるにはこの位の觀察力がなくてはなるまい。この意味に於ても私は落第である。

そこで私は人の顔を憶えるのに相當苦心を拂つて居る。そしてその最も効果的なのは、似た顔を揃へて憶える事である。似た顔と言へば、蠶絲業界では農林省の明石蠶業課長、

と京畿の吉村教授、石渡博士と神奈川蠶絲試の福田場長は全国的に有名であるが、我が同窓中では、農林省蠶絲課の小平君(舊姓武井、絲13)と蠶絲の光發行所の依田君(蠶14)、母校の井上教授と共榮社の丸山君(蠶1)針塚校長と前蠶絲局長の入江氏などの組合せはドンナものだらう。白澤君は一高の片山教授(中學の同級生)栗原君は農林省蠶絲課の下田技手(東蠶出)に似て居るから、もう何處で會つても大丈夫である。

斯く言ふ私に似た者が、今千葉市に二人居る。一人は商工水産課長の岡事務官、いま一人は新聞記者の金山氏。今日も今日、役所へ似顔かきがやつて来たので、大枚十錢を授けて私の顔をスケッチさせ、之を岡氏にみせたら「金山君だ」と言ひ、金山氏にみせたら「岡さんぢやないか」と言つた。時折途上で見知らぬ(?)人から挨拶される事があるが、それは私を岡氏の何れかに間違へたものか、それとも私の顔忘れ症によるものか、何れとも断定に苦しむ次第である。その内に三人仲よく嬉んで寫眞を撮つてお目にかけませうか。

(八・九・二六)

### 夏の日記

確永 茂

空が高くなつて涼しさが加つて来ると闘争的な夏が思ひ出される。いま僕は夏の日記を引き出して見てゐる。勿論日記にはところどころしか書いてないが次のやうな部分を發見した。

八月×日 前の森で蝉が鳴いてゐる。ジ  
1ジ1鳴いてゐる。涼しいわけではないが、夏として見れば涼しい風の吹いて通る日だ。日曜らしい日曜をしたことの少ない僕は、今日はよい日曜である。  
八月×日 この間は防空演習で、夜になると電燈を消したり、電燈を目くしをして讀みものしたり、書き物をしたりしたが、それが済んで了ふと気が晴々した。  
「電燈を消して下さい。」  
といふ聲が聞えなくなつた。その代り何となく淋しくなつたやうな感じがしないでもない。  
八月×日 僕は里芋そのものを餘り食ふ氣になれない。食へないもの、食べて見たいもの、としての中へ這入つてはをね。然し里芋が畑へ植ゑられてゐるのを見るのは大好きだ。里芋の畑の傍を通るといつも僕は立ち停つて見てゐる程だ。  
八月×日 今年になつて田舎から見えやが来た。仕事をすることは餘り好きらしくないが、妙に何かを家の周囲へ植ゑたりなどする。玉蜀黍を植ゑたり、豆類を蒔いて大きくしたりする。このねえやが何處から種子を見つけて来て里芋を大きくした。その里芋は非常に成長していま僕が物を書いてゐる窓の外に突つてゐる。あのユサユサした厚肉の大きな葉を開いて、風を受けては揺れてゐるのだ。僕は物置で疲勞すると、よくこの里芋の葉を眺める。朝起き上つてはこの葉を眺める。朝め先から歸つて来て服をぬいで裸になつてはこの葉を眺める。  
さうだ。僕ははたそらく一日中には數回この里芋の葉を眺めるだらう。  
殊に夏の夕暮れなどにこの葉を眺めることは好きである。用事が終つてフツリ外を歩いてゐる時に、この里芋の葉が招いてゐる風情を享樂するのは非常にいい。  
八月×日 八月の聲を聞くと秋らしい感じがする。照りつける陽の光にも、秋らしいものを感ずる。今日は八月の十四日。八月の新暦で盆をするところなら盆の中の日だ。  
八月×日 初めて雑誌の編輯といふことをやつて見た。なかなか手の掛る仕事だ。だが校正が終つてその結果がどうだらうと考へながら雑誌の顔を見る迄の心

持ちは非常に楽しみなものだ。心配でもある。出来上つて了ふとホッとする。  
八月×日 今年の夏は、つい這入り度いと思つてゐた水の中へ這入らずに終つて了つた。忙しかつたのだ。いまになつて見ると惜しいことをしたと思ふ。来る年も来る年も、さうした忙しさのために追れるのだらうと考へると、静かになつて見たい氣が頻りと動く。  
八月×日 今居るところは静かで、しかも空氣がいゝと思はれるので引越して来たのだ。引越して来てから約一年半ほどになる。その頃隣空には(家主は同じ、若い夫婦がゐた。フワウが胸を病んでゐたやうだ。勿論寝通しに寝てゐるといふのではないが。  
その人達が引越して行つた。さうして約一ヶ月空家が續いた。この間又舊つた。今度は主人の方が毎日、日光と新鮮な空氣とに親しんでゐる様子だ。この人も胸が弱いのだらう。  
九月三日 非常に蒸し暑い。裸でゐても少し何か仕事をしようものなら、玉のやうな汗だ。降りさうで降らぬ天氣は誠に氣分が悪い。降るなら降つて了へ」と歎鳴り度くなる。  
九月八日 この祭日だ。近くの空地へ土俵が出来た。午後五時頃から子供角力があつた。角力が終ると「東京躍」だ。どこから集つて来るのか知らぬが、七時頃になると澤山の人が集つて来る。男も女も、子供も。さうしてこれらの人々が東京躍を躍るのだ。九時頃になると相當廣い空地が塞がつて了ふ。  
躍り疲れた人々は「躍りの環」を離れて休息する。そして又躍るのだ。  
× × ×  
かうした躍りは僕の近くのみの出来事ではない。今東京では、至るところの空地や廣場で殆んど毎晩のやうに東京躍りが躍られてゐる。しかもこれから先、いつ迄この躍りが躍られて行くかわからない程だ。

× × ×  
果物屋——果物屋をのぞいて歩くことを僕は大好きだが——の店頭はいま賑やかである。無花果や、柿や、ブドウや、苺やが首を並べて買ひ取つて呉れる人々を待つてゐる。僕は時々店頭からこれら果物を買つて来て食ふ。中でも僕は柿が大好きなもので、時々柿を買つて来ては食ふ。  
× × ×  
支那そば屋がチャルメラを吹いて通るのはこれからだ。早く来て呉れば可い、と僕は心待ちに待つてゐる。(一九三三・九・二七)

### 二十五周年記念事業に就て

昭和十年には母校創立二十五周年祝賀式並に記念事業を行ふことになつて居ります。昨年の代議員會に於ては本年の代議員會迄各支部で研究して本會へ報告することに決定して居りました。本年の代議員會も目捷の内に差し迫つて居りますので各支部から現在迄報告のあつた案を一括して御參考迄に御報知致します。

#### 一、既定事業計劃

- 1 勤続教育職員並に使用人に記念品贈呈
- 2 物故教育職員同窓生並に使用人に追悼會
- 3 記念講演會開催
- 4 講演集又は記念論文集の發行

#### 二、未定事業

- 1 千曲會館、千曲會事務所等の建設 費用は三千圓より二萬二千圓の範圍
- 2 奨學資金、育英資金等 費用は一萬圓より二萬圓の範圍
- 3 本會活動資金の基金積立
- 4 二十五周年記念資金の造成
- 5 共済組合制度又は弔慰基金の特設
- 6 全國蠶絲業博覽會開催(上田市)

#### 三、資金出途方法

- 1 基本金の一部を費消
- 2 一般會員より一部を募集

3 特志家の寄附を仰ぐ  
以上の三つの既定事業計劃は何人も異論無きものであります。二の六項目、三の三項目は相當御研究を煩はすものと存じますから充分御討議の上支會で取り纏め御報告を願はるれば幸に好都合であります。  
鹿兒島高等農林學校は本年度に於て二十五周年を迎ふるが故に本年度に於て記念會規程を設け夫々準備に着手して居ります。其の豫算を御參考のため御報知致します。

- 一、收入之部
- 一金參萬四千圓也 總收入
- 內 譯
- 金貳萬八千圓也 會員蠶出金
- 金六千圓也 基金より流用
- 一、支出之部
- 內 譯
- 金貳千五百圓也 記念論文集發刊費
- 金八百五十圓也 贈呈記念品費
- 金壹百圓也 追悼會費
- 金壹萬貳千圓也 記念會館建設費
- 金壹千圓也 事務所費雜費
- 金壹萬七千五百圓也 二十五周年記念資金

#### 一、蠶金方法

- 一人一口以上蠶出一口は金五圓(以上)
- こほろぎがないて夏が終る。

#### 九月のかほり

× × ×  
鋪道の隅のアスファルトの下でなく。街路樹のボアラの葉が一枚面をかすめて夏の暮を知る。こほろぎと鋪道とアスファルトと街路樹と秋の近付くを知る。  
× × ×  
高原では澄み切つた空に淺間の呼吸が浮き出て秋を知つた。それから秋の表象に星が八ヶ岳の頂上であつた。  
× × ×  
朝の電車の中で。  
「いや、百％焼けたなア」

「さう言ふ貴君も」  
「二、三日でこれですよ。は、は、」  
「御子供さんも見ものでせうなア」  
「焼けて黒くなるのが嬉しい事ですか」  
「うん」  
「余」  
「時に娘さんは、愛子さんと申しましたか」  
「同然よく焼けてますよ。この頃の娘は、どうも」  
「いや、その方々で無く」  
「と云ふと」  
「御縁談が、おありの様でしたか」  
「あア、有難うございます。海水浴で、合をやりまして無事……」  
「海水浴で？ 成程考へましたなア。現代的なことをやりましてなア」  
「は、は、自分でこりましてからなア」  
「駄目だらふよ」  
「聞いて置んだつたなア。あれ迄になつたんだもの」  
「あれまでつて、君」  
「うん。實は言はずに居たんだけど、あの晩、僕が歩いた。い、い、月夜だ。たんだぜ。舟べりが青白く輝いて、その舟の中に偶然居たんだ。俺の行くのを待つて居る様に」  
「で、それから」  
「種々話したさ」  
「住所聞いたかい」  
「それが……」  
「一体何を話したんだい」  
「昔々王子様とお姫様が路で砂漠を旅行した話さ。恰度あの邊には砂丘があるものだから」  
「で、彼女何と云つたかい」  
「うん。い、い、お月様ねつて」  
「それだけか」  
「うん。僕もい、い、月だねと云つた」  
「チエツ。馬鹿々々しくつて聞いて居られん。僕は先へ失敬する。會つたら宜しく言つてくれ。それからこれは余のいな事かも知れんが夏の夢はその儘にしておいた方が秋の散歩のためによか

アないかね  
「残暑酷しいなア」  
「うん」  
「うん、や、無え何か借れよ」  
「理由が無えよ」  
「ばつくれるない。言ふぞ」  
「何をさ」  
「彼女訪問の件さ」  
「俺の夢、こわすのか。借るなんて事で君のクチを縫ひ度くないよ」  
「夢とは」  
「夢さ。峠を越して谷を上つて彼女に會つて来た事余体が夢だ。もう二度と同じ條件では會はないだらふと云ふ點で、又行くかも知れない行かないかも知れない。行つたとしても其時は親しく名を呼ぶことさへ許されないかも知れない。又想出に耽る事で追返されるかも知れない。止めやう。だがあれは夢さ。美しかったと思つて居ればよい夢だよ」  
「九月の臘月が眞綿につつまれて、ものうげに窓をのぞく、淀む夜あらゆる幻想が生きて、踊り出て来て、生存と云ふ根強い意識も何時しか僻走して仕舞ふ。秋と云ふ姿。悲哀か、清麗か？」  
「勝戦し賃を受け、慰勞の盃を傾むける時秋なれば高麗林間や美し、敗戦失位し身六尺に足らざる天地何れも激流奔走の河岸に遺失し將に生命を断たんとする時秋なれば落葉飛雁や悲し」  
「汝この秋如何と問ふ」  
「今宵この月を眺めあらゆる可能な想像の流に身を投げ出し、月情の鐵欄を忘れた今唯美しい初秋を感じるのみである」  
「秋父に旅す。夏の想出の唯一。山靜かなりけり。川清く流れぬたり。都の宴に飽きたる吾は唯松の緑にしばし去り得ざりし。編して秋父旅日記あり。中に一人の少女の事書きありたり。その己が心今吾知れり」  
「秋だ秋だと叫んで見てもどうも今日は暑い。残暑なら残暑らしく夕方になつたらさつと引上げればい、い、のに岡々しく十二時頃まで構へて居る。高氣壓の威力

が發端された結果に依る人ださうだが有難くない暑さだ。確永峠で數年前の今日涼風に肌を酒した事があるがあの気分は未だ忘れない。氷水代后(一)日分として one glass とつておく。  
例の暑い(前號で紹介した)の總計が八圓。これを一人で處分すると相當のものなんだが二人で食むんだから心細い次第だ。助成金交付申請書は手帳のものと似た規則はない。がその方々になると頭が直ぐ更生するのが居るからその内に眞珠培養の増殖をやらう。八圓と言へば一回五錢だから一六〇圓だ。M技手の二四回を「No」に小生が七回で第五位である。一番の出し頭は床柱をかつぐ事になつて居る。  
アパートに三ヶ月も居ると古狸の方がある。氣の持ち様で佳良いものだ。月に雲が戯れられる。澄切つた空の眞只中。秋のアパートは感傷的だ。古狸も物干台で腹でもた、と云ふかな。一九三三・九・一

NEWS

放送局

故三吉先生の銅像移轉並に七回忌法要執行 十月一日上田市公園に於て諸事盛會裏に執行されました。銅像の位置は公會堂正門の南芝生で現在の入口から眞正面に其の英姿を仰ぐことが出来公團附一の適所と目されて居ります。蠶業學校が築屋台下に移轉して後七ヶ年、淋しく権現坂上に埋もれて居たものが今同歴史的にも由緒深く又最も眼につき易い松尾城頭に遷つたのであります。之で漸く先生の遺徳も普く萬人欣仰の標的となることが出来ました。公團の風致にも一偉彩を添えたので一般に非常に好評であります。銅像には針塚先生の撰文揮毫になる移轉の辭が銅板におこされて取りつけられ一層光彩を放つて居ります。法要も來會者があの公會堂に充つる盛會で、母校から教職員千曲會員殆ど全部出席し御焼香致しました。 九月八日東京に於て東劍道部東京遠征

京高嶽と對校試合を致しました。紅白勝負に於て敵に不戰優勝五人を残し個人勝負に於て敵に六勝せられ何れも敗戦の苦杯を嘗めました。柔剣道は母校の特色ある競技の双璧として自他共に許して居たのですが、茲に激應援を賜つた先輩諸

坂本孝子氏弔慰金募集  
本會々員坂本孝子氏(絲八)豫而御病氣の處養生不相叶九月四日遂に御逝去被致候間此段本紙上を以て及御通知候也  
追而有志弔慰金は十月末日迄に取纏め遺族へ贈呈可致候間便宜上振替口座東京第四三三四一番へ坂本氏弔慰金の旨御明記の上御拂込被下度候  
昭和八年九月十五日  
上田蠶絲專門學校  
千曲會

竹内清氏弔慰金募集  
本會々員竹内清氏(蠶六)豫而御病氣の處養生不相叶十月二日遂に御逝去被致候間此段本紙上を以て及御通知候也  
追而有志弔慰金は十一月末日迄に取纏め遺族へ贈呈可致候間便宜上振替口座東京第四三三四一番へ竹内清氏弔慰金の旨御明記の上御拂込被下度候  
昭和八年十月十五日  
上田蠶絲專門學校  
千曲會

した、弓道は庭球と共に高嶽の得意とする特色であります。野球部の活躍 本年の野球部は比較的優れ相當活躍致しました戦績は左の通りであります  
九子農商 九對五 負  
上田中學 十三對九 勝  
小諸商業 十三對八 勝  
小諸商業 十三對八 勝  
山梨高工 五人對三 負  
松本高工 二十對九 負  
松本との試合は氣分的のコンデションに恵まれず内外野の守備に破綻を來し上げずも哉の點を献上して大量の差異を生じたのであります。  
柔道部對校試合 九月十五日東京高嶽の柔道部選手を母校に迎へ對校試合を行ひました。紅白試合(九人)に於て四人残り個人試合に於て五對一と云ふ戦績を残して見事に勝ちました。九月三十日長野師範と紅白試合を行ひましたが之も三人不戦を残して母校の勝となりました。母校の龍兒柔道部は相當なものです小松と云ふ猛者が來年度も残ることになつて居ますから母校のために氣を吐いてくれると思ひます  
陸上運動會 第三日曜日たる本月十五日には陸上運動會を舉行致します。學生は放課後應援團歌と太鼓の音で校庭を賑はして居ります。東京音頭を取り入れたあたり三三三型と申しましたやうか兎に角應援團も上田の一名物となつてしまひました。  
千曲會誌  
九月五日 横濱生絲検査所在勤の坂本孝子氏(絲八)逝去につき本内神奈川支局會長を経て遺族へ弔電を渡せり  
九月八日 内務省警保局へ蠶絲學雜誌出版手續省署提出す  
九月十八日 母校創立二十五週年記念祝賀式の件に關し第三回協議會を開催諸般の研究をなせり  
同日 故渡邊隆平氏の遺族へ有志より送られし弔慰金三十一圓五十錢を贈呈せり  
九月二十五日 振替貯金口座加入者名義

上田蠶絲專門學校同窓會とあるを千曲  
會に變更の件東京振替貯金課へ請求書  
提出せり  
十月一日 故三吉先生の銅像移轉竣工式  
並に七年忌法要舉行せらるる本會より松  
村理事長並に在田門下生鶴田北信支會  
長參列せり  
十月二日 母校創立二十五周年記念祝賀  
式の件に關し第四回協議會開催前日に  
引續き研究す  
十月四日 伊北農商學校在勤の竹内清氏  
(蠶六)逝去につき遺族へ弔慰を發し同  
時に酒井末吉氏へ本會を代表して弔慰  
方依頼せり

千曲會終身會費完納者氏名

篠原 善次 (蠶一) 有賀 文雄 (絲一)  
外ニ蠶絲學雜誌代  
小笠原 安重 (蠶二) 河合 英一 (絲五)

千曲會通常會費納入者氏名

○佐藤 國一 (蠶四) ×天田 晉三郎 (蠶五) ○居相 泰一 (蠶六)  
○二本 猪一 (蠶八) ×萩野 徹男 (蠶八) ×三好 圭一 (蠶八)  
×緒方 善之助 (蠶八) ○赤津 辰男 (絲十二) ○稻田 實 (絲十二)  
○黒木 藤雄 (絲十九) ○大上 吉清 (絲二十) ×田上 忠義 (絲二十)  
×井田 英夫 (絲二十) ○白井 美明 (絲二十) ○坪根 克彦 (絲二十)

入會金貳拾圓完納者

清水 洸 (蠶二十) 中島 眞 (蠶二十) 外ニ蠶絲學雜誌代入り  
内金拾圓納入者 頼富 正廣 (蠶二十) 白井 美明 (絲二十)  
内金五圓納入者 萱野 恒 (絲二十) 坪根 克彦 (絲二十)

住所移動

(自九月一日至十月一日)  
穂坂 小牧 蠶二 昭和産業株式會社(鹿兒島縣鹿屋町)住所社宅  
上林 多兵衛 蠶七 千葉縣蠶業試驗場(鹿兒島八日市場町)  
田口 富五郎 蠶九 上高井蠶業學校(長野縣須坂町)  
原 茂 蠶十三 利根農學學校(群馬縣利根郡利南村)  
内田 訓之亮 蠶十三 昭和産業株式會社(鹿兒島縣鹿屋町)  
竹内 衛佐雄 蠶十六 長野蠶業試驗場松本支場(松本市)  
佐藤 馨 蠶十七 本校蠶業科  
朱 寛 蠶十七 成鏡南道成州郡雲南而湖上里六六  
玉 福 山 蠶十七 中華民國南京社會局  
千村 敏三 蠶十八 長野縣蠶業取締所上田支所(上田市)  
新井 貞雄 蠶二十 長野縣南佐久郡岸野村  
寺島 万太郎 蠶二十 片倉製絲紡績株式會社取手出張所(茨城縣取手町)  
田中 一男 絲一 大日本紡績株式會社岐阜絹絲工場(岐阜市五坪)

叙任及辭令

昭和八年八月三日 地方農林技師 田中 福雄  
八級停下賜(七月二十七日千葉縣)  
公立實業學校教諭 古東 幹太  
昭和八年八月二十六日ヨリ年功加俸年  
額百四十四圓下賜  
昭和八年八月五日 公立實業學校教諭 深谷 正一  
八級停(當分千參百貳拾圓)下賜  
(以上六月十七日新潟縣)  
昭和八年八月八日 實業補習學校教員養成所教諭  
愛媛縣實業補習學校教員養成所教諭ニ  
補ス 岩本 市郎  
昭和八年八月十五日 公立實業學校教諭 小林 禮二  
八級停下賜  
昭和八年八月十八日 公立實業學校教諭 宮島 徳一郎  
六級停(當分千七百九圓)下賜  
昭和八年八月二十四日 公立實業學校教諭 江頭 辰雄  
長野縣立農學校教諭ニ補ス  
昭和八年八月三十一日 生絲検査所技師兼農林技師 田口 敏夫  
陸叙高等官四等  
昭和八年九月一日 公立實業學校教諭 工藤 二三  
陸シテ高等官五等ヲ以テ待遇セラル  
昭和八年九月四日 公立實業學校教諭 花岡 作彌  
年功加俸年額九拾六圓四角下賜(八月三十  
日愛媛縣)  
昭和八年九月五日 公立實業學校教諭 江頭 辰雄  
八級停(當分千四百四拾圓)下賜(八月  
二十三日長崎縣)  
昭和八年九月十五日

編輯室より

今月も亦前月にも増す多數の原稿を頂戴  
した事を厚く御禮申上げます。殊に今月  
は時局柄滿洲記事が多くありました。  
○ ○ ○  
頂いた原稿は出来るだけ多く登載する様  
今月は特に都合して紙面を増し十頁に致  
しました。が猶かなり来月廻しにせねばな  
りませんでした。  
○ ○ ○  
従つて長篇のものの中には編輯子に於  
て勝手に中途で打切つて後を来月に廻し  
たものもありました。之等の諸點何卒御諒  
承の程御願ひ申し上げます。  
○ ○ ○  
代議員會も近づきましたので各支部でも  
夫々大會がある事だと思ひます。どうぞ  
支部通信を御寄せ下さる事を今から御願  
ひ申して置きます。  
○ ○ ○  
時將に柿の秋、栗の秋、思案の秋であり  
ます。遙かに各位の御健康を祈り上げま  
す。

後藤 富次郎 絲一 横濱市磯間町八九九  
酒井 五十三 絲二 片倉製絲紡績株式會社武井製絲所(上伊那郡辰野)  
島 湯三 絲二 不明  
的場 小六 絲六 那志製絲株式會社工務課(京都府綾部町)  
三ヶ田 良吉 絲七 大分市唐人町三ヶ田ツル方  
倉橋 琢而 絲十 那志製絲株式會社神戸營業所(神戸市神戸區海岸通五商船  
ビル)訂  
八田 直次郎 絲十三 福岡縣蠶絲課(福岡市)  
上田 岩男 絲十四 喜須來製絲場(愛媛縣西宇和郡喜須來村大字須川)  
則信 忠夫 絲十四 日東製絲株式會社磐城工場(福島縣相馬郡原ノ町)  
茅野 清三郎 絲十五 上田市應厘町  
福島 喜藏 絲十八 矢島製絲株式會社第三工場(甲府市富士見町七)  
西山 省 絲十九 日東製絲株式會社岐阜工場(岐阜市辨天町)  
林 龜一 絲十九 片倉製絲紡績株式會社上井工場(鳥取縣東伯郡日下村)  
大川 忠行 絲二十 岩手縣製絲株式會社千厩工場(岩手縣東岩手郡千厩町)  
田上 忠義 絲二十 日東製絲株式會社千厩工場(岩手縣東岩手郡千厩町)  
宮下 文四郎 絲二十 片倉製絲紡績株式會社千厩工場(岩手縣東岩手郡千厩町)  
飯島 貞雄 絲二十 合名會社旭工業商會(東京市芝區田村町三丁目七番地)  
村島 徹 絲二 水戸市赤沼町二七三  
坂本 政雄 絲七 宮崎縣那珂郡西野口國太郎方  
四宮 太郎 絲九 姫路メリヤス株式會社(姫路市)  
和田 貞政 絲十 本校絹絲紡績科  
柳澤 信義 絲十 高崎市飯塚、丸茂實方

地方農林技師 藤井 料  
陸シテ高等官四等ヲ以テ待遇セラル  
昭和八年九月十六日 地方農林技師 藤井 料  
願ニ依り本職ヲ免ス  
昭和八年九月二十日 長野縣東筑摩農學校教諭 片岡清治郎  
公立實業學校教諭ニ任ス  
高等官七等ヲ以テ待遇セラル  
長野縣農林技師ニ任ス  
地方農林技師ニ任ス 上林多兵衛  
高等官七等ヲ以テ待遇セラル  
昭和八年九月二十一日 地方農林技師 上林多兵衛  
千葉縣農林技師ニ補ス  
昭和八年九月二十二日 公立實業學校教諭 片岡清治郎  
長野縣東筑摩農學校教諭ニ補ス  
同 田口富五郎  
長野縣上高井蠶業學校教諭ニ補ス  
昭和八年九月二十八日 地方農林技師 上林多兵衛  
十一級停下賜(九月廿三日長野縣)